

体のいたる所のできるほくろ。生まれた時からあるものもあれば、後からできるものもあります。特に生まれた時からのものは、大ききさままでです。盛り上がっていたり、毛が生えていたりします。爪にできると黒い線になります。

ほくろは長い期間、摩擦や圧迫などの刺激を受けると、ほくろのがん「メラノーマ（悪性黒色腫）」になることがあります。広島県内の患者は年間10〜20人ほど。他のがんと比べると少ないです。ただメラノーマが怖いのは、小さくても転移しやすく、病気の経過が非常に悪いことです。欧米人では紫外線を受け

皮膚の病気あれこれ

岩崎泰政

4

ほくろ



イラスト・霜野美香

悪性化心配なら受診を

細胞からでもできることもあります。

では、気になる悪性になりそうなほくろにはどんな特徴があるでしょう。①左右が対称でない②端がぎざぎざして、境界がはっきりしない③濃い部分や薄い部分があり、色にむらがある④大きさが6mmを超える⑤急に大きくなり、形や色も急に変化し盛り上がるなどです。メラノーマの場合も急速に大きくなったり、盛り上がったたり、出血したりします。

診療していると、運勢が変わるから顔のほくろは取りたくないという人もいれば、見た目や悪性化を気にしてすぐ取りたいという人もいます。治療は手術で切除しますが、非常に小さなホクロは、炭酸ガスレーザーや電気でも取れます。ただし、必ず痕が残ります。焼いて取る治療では再発もあります。後から検査ができなくなるのも課題です。

心配なほくろがあれば、皮膚科を受診してください。最近は皮膚を取らなくても、拡大鏡を使うダーモスコピーという簡単な検査で、大半が瞬時に診断ができるようになりました。

（岩崎皮ふ科・形成外科院長 長川福山市）

やすい顔面などのできるタイプが多い。しかし日本人は、刺激を受けやすい足の裏や、絶えず伸びている爪

などから生じるタイプが約半数を占めます。メラノーマはほくろからでなく、正常な皮膚にある色素を作る